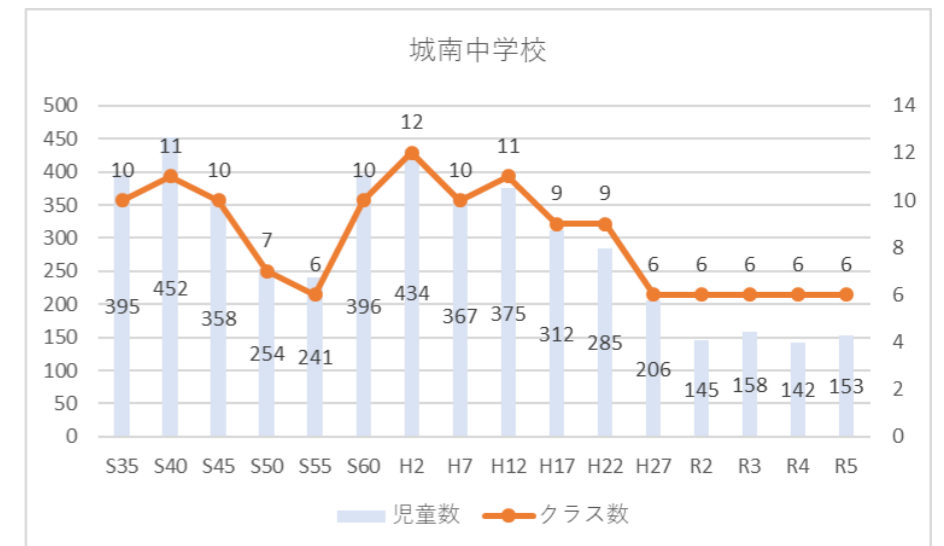
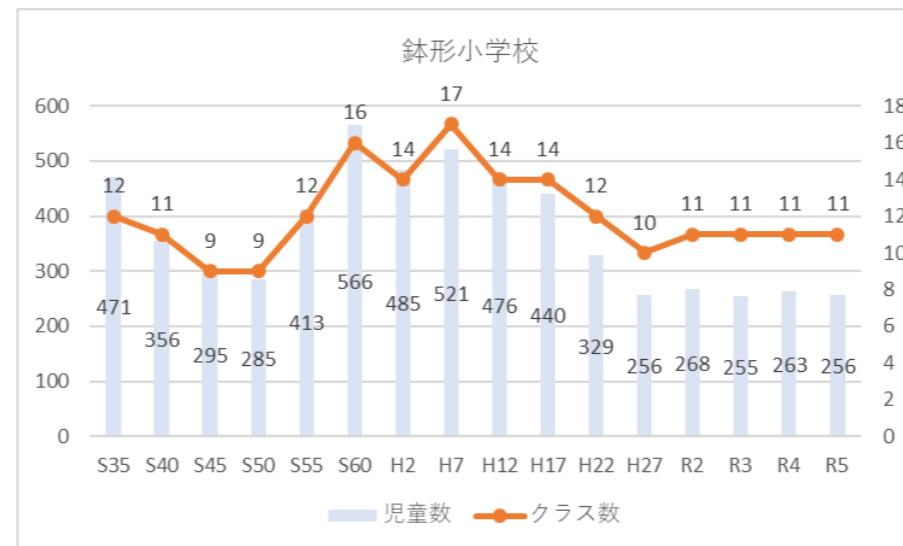
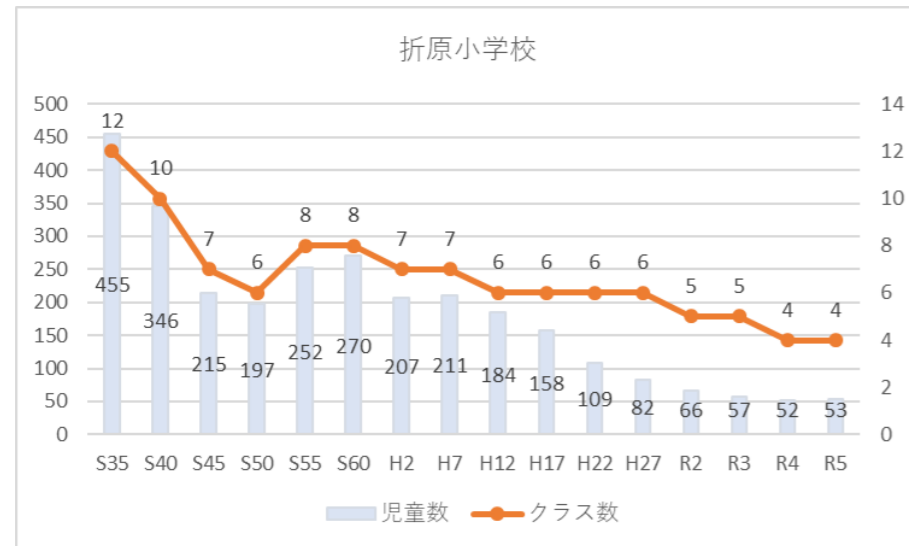


城南中学校区小中学校長寿命化・集約化検討事業

■ 検討の背景

折原小学校、鉢形小学校両校の校舎は昭和40年代に建築され既に50年が経過し、施設の老朽化が随所にみられます。また、児童数が減少し将来推計においても増加が見込めず、特に折原小学校では複式学級が常態化する可能性があることなどから、城南中学校区の小中学校のあり方の検討は喫緊の課題となっております。

■ 児童生徒数の状況



■ 施設の現況

折原小学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟①	昭和47年3月	鉄筋コンクリート造	1,603㎡
便所	昭和49年3月	鉄骨その他造	18㎡
屋内運動場	昭和49年3月	鉄骨その他造	648㎡
教室棟②	昭和56年3月	鉄筋コンクリート造	731㎡
倉庫①	昭和62年3月	鉄骨その他造	27㎡
倉庫②	平成4年3月	鉄骨その他造	20㎡

鉢形小学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟①	昭和46年3月	鉄筋コンクリート造	988㎡
屋内運動場	昭和48年3月	鉄骨その他造	657㎡
便所	昭和53年2月	鉄筋コンクリート造	25㎡
教室棟②	昭和57年3月	鉄筋コンクリート造	2,034㎡
資料室	平成5年3月	鉄骨その他造	65㎡
プール付属室	平成15年3月	鉄筋コンクリート造	103㎡
教室棟③	昭和53年2月	鉄筋コンクリート造	333㎡
教室棟④	昭和60年12月	鉄筋コンクリート造	481㎡

城南中学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟	平成6年1月	鉄筋コンクリート造	4,708㎡
屋内運動場	平成6年3月	鉄骨その他造	1,184㎡
クラブハウス	平成6年3月	鉄骨その他造	243㎡
倉庫	平成6年3月	鉄骨その他造	50㎡
武道場	平成7年1月	鉄骨その他造	508㎡

各校の現状

● 折原小学校



屋上防水保護モルタル劣化



壁面ひび割れ



天井雨漏り跡



廊下：タイル剥がれ

● 鉢形小学校



屋上防水トップコート剥離、穴あき



ひび割れ、破損



天井雨漏り跡



給水管錆、腐食

課題に対する対応策の検討（令和4年度実施の「集約化・長寿命化調査業務」より）

『児童生徒数の減少』と『施設の老朽化』といった課題への対応策として、次の3案をワークショップメンバーと共有しました。

案1 既存小学校施設を改修して利用を続ける

現在の、折原小学校、鉢形小学校、城南中学校の3校体制は変えず、老朽化した小学校2校について大規模な改修工事を実施する案です。

大規模改修工事により、施設の安全性や機能性の向上がはかられます。

一方で、児童数減少に伴う学校運営上の課題は残ることとなり、特に、折原小学校では、複式学級が常態化する可能性があります。

また、本案は、同時期に2校を改修する必要があるため、工事費は割高となります。

案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

現在の、折原小学校、鉢形小学校を集約し、城南中学校の敷地内に新校舎を建設する案です。

小学校2校の集約化により、折原小学校の複式学級は解消されます。また、中学校と同一敷地に建設されるため、中学校校舎との一体利用が可能となります。

小学校の高学年教室を中学校校舎内に配置するなどの工夫により、中学校施設に事前に慣れ親しむことが可能となり、中学校進学への不安を軽減させ「中1ギャップ」の解消がはかられます。

一方で、集約化により、通学距離や時間の変化が生じ、登校時間や下校時間に対応した配慮が必要となります。また、子どもの体力や保護者への負担が生じる場合があるだけでなく、交通事故や防犯上などの安全面で配慮が必要です。また、体育館やプール設備など、小中学校で規格が異なるものを併用する場合、各種器具の高さや大きさなど検討を行い、必要に応じて改修工事が必要となります。

案3 既存小学校1校を改修し、集約する

折原小学校か鉢形小学校どちらか1校を大規模改修し、集約化する案です。

小学校2校の集約化により、折原小学校の複式学級は解消され、大規模改修工事により、施設の安全性や機能性の向上がはかられます。

一方で、集約化により廃校となる校区の児童に対して、案2同様、通学条件について配慮が必要となります。

ワークショップ通信 VOL.1

城南中学校区小中学校集約化・長寿命化検討事業

～ とどけよう 地域の**声**を!
伝えよう!みんなの**思い**を!! ~

折原小学校、鉢形小学校両校の校舎は昭和40年代に建築され既に50年が経過し、施設の老朽化が随所にみられます。また、児童数が減少し将来推計においても増加が見込めず、特に折原小学校では複式学級が常態化する可能性があることなどから、城南中学校区の小中学校のあり方の検討は喫緊の課題となっています。



学校施設は、教育の場であると同時に地域の方々にとっては、生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、災害時には避難所としての役割を果たす重要な施設であります。

そのため、将来の学校施設の議論については、児童生徒数の減少や施設の老朽化等、現状の課題等を踏まえた上で、関係する地元地域のみならず、意見交換等を重ね、より多くの方々にご理解をいただきながら進めてまいります。

ワークショップを実施します

将来の学校施設のあり方について、地元のみならず、広く意見を聴取するため、ワークショップを実施します!

ワークショップとは?

ワークショップとは、もともと「創造的な協働作業」を意味することばで、集まった参加者が、全員で一緒に考えながら、協働作業で提案やプランを作り上げていくものです。

ファシリテーター(進行役)の進行のもと与えられた課題やテーマに対して複数人からなるグループで話し合いをしたり、共同作業を行います。説明会などの一方的な会議と異なり、ワークショップでは参加者同士で双方向のコミュニケーションを取りながら課題解決を行います。

ゲームの要素を用いるなど、リラックスした雰囲気の中で、参加者が自由に、気軽に意見を出し合える雰囲気で行い、さまざまな思いやニーズ、ノウハウ等を引き出して、提案やプランに生かしていく手法です。



第1回 ワークショップ会議

2023.9.22 @鉢形財産区会館

ワークショップ会議は、折原、鉢形地区の代表(区長、民生委員、各小中学校PTA)36名で構成され、第1回会議には、33名の方に参加いただきました。

会議内容

- ・ 町公共施設全体の状況について(総合政策課説明)
- ・ 城南中学校区小中学校の現状について(教育委員会 教育総務課説明)
- ・ キックオフ(ワークショップの目的・ルール説明・自己紹介等)
- ・ 模擬会議(公共施設再編ゲーム)

模擬会議(公共施設再編ゲーム)は、公共施設の配置計画を考えるゲームで、限られた予算のなかで、「増える高齢者」、「減る子ども」に対応するため、公共施設の新設・廃止・複合化を検討するものです。

グループごとに意見を出し合い、協力しあって、全てのグループでお題をクリアすることができました!



当日の様子



次回以降、将来の学校施設のあり方について、具体的な検討をおこなってまいります。

問い合わせ先 寄居町教育委員会 担当 教育総務課 総務管理担当
電話 048-581-2121(内線 511)

ワークショップ通信 VOL2

第2回会議 2023.10.20 @鉢形財産区会館

第2回ワークショップ会議では、各校が抱える課題の共有と、その対応策への理解を深めることを目的として議論いただきました。

ワークショップ内容

5つのグループに分かれ、各問いについて活発な議論が行われました。
問いのメリット・デメリットを整理し、最後にグループの代表者による発表を実施いたしました。

～ 問いの内容 ～

問1 児童生徒数、学級数の減少によるメリット・デメリットについて考えよう!

【小・中学校の課題に対する対応策の検討】

問2 案1 既存小学校を改修して利用を続ける場合

問3 案2 2つの小学校を集約化し、新校舎を城南中学校敷地内に建設する場合

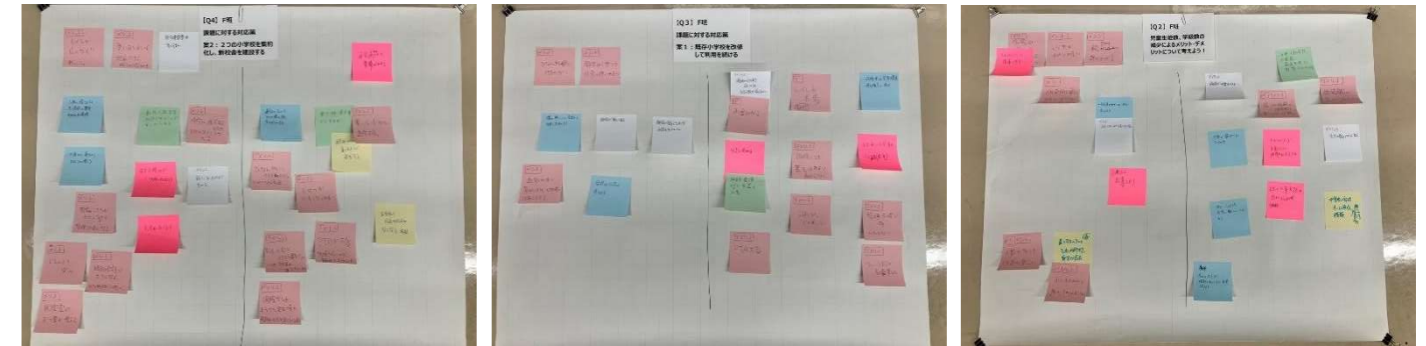
問4 案3 既存小学校1校を改修し、集約化する場合

限られた時間でしたが、活発な議論により、多くの意見を集めることができました。

当日の様子



○ 幅広い意見や考えを収集・集約するため、とにかく思いついたアイデアや考えなどを付せんに1枚ずつ、どんどん書いていただきました。さまざまな意見の付せんをグループ分けすることで、まとまりにくい事柄も、効率的に整理することができました。
○ 多くの付せんが貼られ、たくさんの意見を収集することができました!



現状の課題に対する対応策についての検討 参加者から出た意見(一部抜粋)

02

既存小学校を改修して利用を続ける場合

- 思い出の場所が残る
- 母校の伝統が守られる
- 施設がキレイになる
- 通学が変わらない
- × 費用対効果が低い、改修費用が多額
- × 改修中の学習環境に懸念
- × 児童数減少の課題が残る
- × PTA(の運営)がきつい、大変

03

2つの小学校を集約化し、新校舎を城南中学校敷地内に建設する場合

- 複式学級の解消
- 中一ギャップが解消される
- 小学生と中学生の交流ができる
- 新築校舎で学べる
- 他の案と比較して費用が安価
- × 通学距離が遠くなる
- × スクールバス等通学環境の整備が必要
- × 先生の目が行き届きにくくなる
- × 部活動の時の小学生の安全が心配
- × 避難所が確保されるのか心配

04

既存小学校1校を改修し、集約化する場合

- 複式学級の解消
- 維持管理費用が削減できる
- 学校行事がにぎやかになる
- 施設がキレイになる
- × 廃校となった校区の通学距離が遠くなる
- × 廃校となった学校の児童への対応が課題
- × 廃校となった地域の避難所確保が課題
- × 不公平感が残る、意見集約が大変

第3回ワークショップ会議では、寄居町教育行政の基本理念を中心に目指す子供像実現のための様々な取組について説明を行いました。

夢と心をはぐくみ 未来を拓く寄居の教育

基本理念に基づく5つの基本目標を定め、その達成に向けて20の施策、78の取組を展開しています。詳細は、寄居町教育委員会HPをご覧ください。

寄居町教育委員会HP



児童生徒アンケート調査について

折原・鉢形小学校の5・6年生、城南中学校の1・2年生に対し、アンケートを実施しましたので、その内容及び結果について報告を行いました。

アンケートは、「人数の多い学校」・「人数の少ない学校」それぞれのメリット・デメリットについて選択式で回答いただきました。各問に対し、回答数の多かった内容を紹介します。

学校は、国語や算数など各教科の知識を学ぶだけでなく、子どもたちが、集団の中でいろいろな考え方に触れたり、協力し合ったりすることにより、表現力や問題解決能力、社会のルールなどを学ぶ場所でもあります。

このようなことを学ぶためには、「人数の多い学校」、「人数の少ない学校」それぞれの「良い点」・「良くない点」について考えてみましょう。

人数の「少ない学校」の良い点について

- 意見や感想を發表できる機会が多い
- 学校行事やクラス活動で、係や役割分担を務める機会が多くなる
- 他学年と交流する機会が多くなる

人数の「多い学校」の良い点について

- クラス替えができ、多くの友達と関わることができる
- クラブ活動や委員会の種類が多い

人数の「少ない学校」の良くない点について

- クラス替えができない
- クラブ活動や委員会の種類が少ない
- 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習の人数が少ない

人数の「多い学校」の良くない点について

- 同じ学年でも交流が少ない友達が生まれてしまうことがある
- 同じ学年での交流が中心となり、他学年との交流する機会が少なくなる

中学校に進学するとき、不安なことや心配なことはありますか？(自由回答)

- ・友人関係について(小学校が違う友達と仲良くなれるか。新しい友達ができるか。上下関係があるのか 等)
- ・勉強関係について(勉強が難しくなっていくか。テストや受験勉強が大変 等)

「人数の少ない学校」とは… 1学年の人数が7~15人程度で、各学年1クラスの学級または、2学年で1クラスの学級としています。
「人数の多い学校」とは… 1学年の人数が40人程度で、各学年2クラスの学級としています。

Q&A

町から説明した内容や、今後の検討における疑問点等について参加者から質疑を受けました。

～ 質疑の内容について (一部抜粋) お知らせいたします～



Q 集約化となった場合、廃校となった学校の跡地利用についての考えは？また、避難場所はどうなる？



A 学校施設の方向性が決定していない現状においては、跡地利用・避難所ともに決定している事項はありません。



Q 案1、案3における施設の改修内容は？



A 長寿命化改修を想定しており、劣化した設備の改修や機能性の向上をはかり、今後30年程度の使用を見込んだ工事です。



Q 案2の新設校舎の規模は？(特別教室等も計画されている？)



A 5・6年生の教室は、既存の城南中学校校舎内へ配置し、新設校舎には1年生から4年生の教室及び必要となる特別教室の配置を想定した規模です。



Q 集約化した場合の通学手段についての考えは？



A 通学距離が延びる児童への対応は町としてしっかりと考えていかなければいけません。現在ワークショップ方式で議論いただいておりますので、是非皆さん方で話し合ってください、ご意見やアイデアを踏まえて、町として対応を検討していきたいと考えています。



Q アンケート調査を城南中学校区の小中学校の児童生徒に限定した理由は？



A 学校施設の検討は、中学校区ごとに検討を進めているため、対象となる3校に限定しました。今後は、パブリックコメント等を実施するなど、幅広く意見を収集していきます。

ワークショップ情報館

ここでは、ワークショップ会議において、重要となる内容について解説いたします!! 今回のテーマは『複式学級』についてです。

複式学級とは…

国の定める学級編制基準に照らして、児童又は生徒数が少ないために一つの学年の児童又は生徒だけでは学級の編制ができない場合に、2つの学年を1つの学級に編制するものです。

複式学級では、異なる学年が同じ教室で授業を受けるため、一方の学年が先生から直接指導を受けている間、もう一方の学年は課題学習することになります。

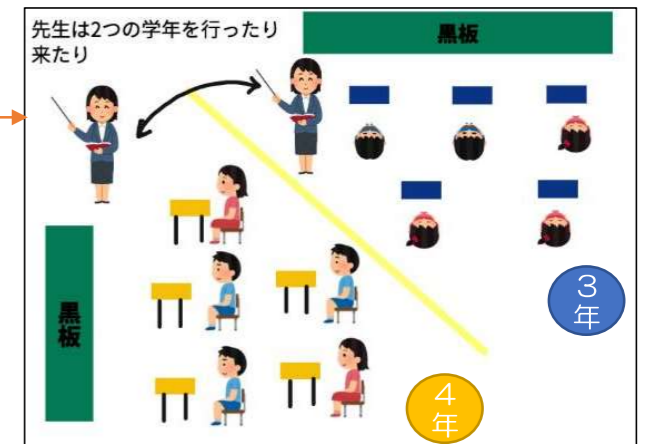
複式学級のイメージ

複式学級における町の対応

折原小学校児童数及び学級数(R5)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	7	7	7	8	8	13
学級数	1	1	1	1	1	1

町では、複式学級における教育の充実を図るため、町費で非常勤講師を配置し、1つの学年に対して1人の教員が授業を行う体制を確保しておりますが、予算の確保に加え、**人材の確保**も大きな課題となっております。



ワークショップ通信 VOL4

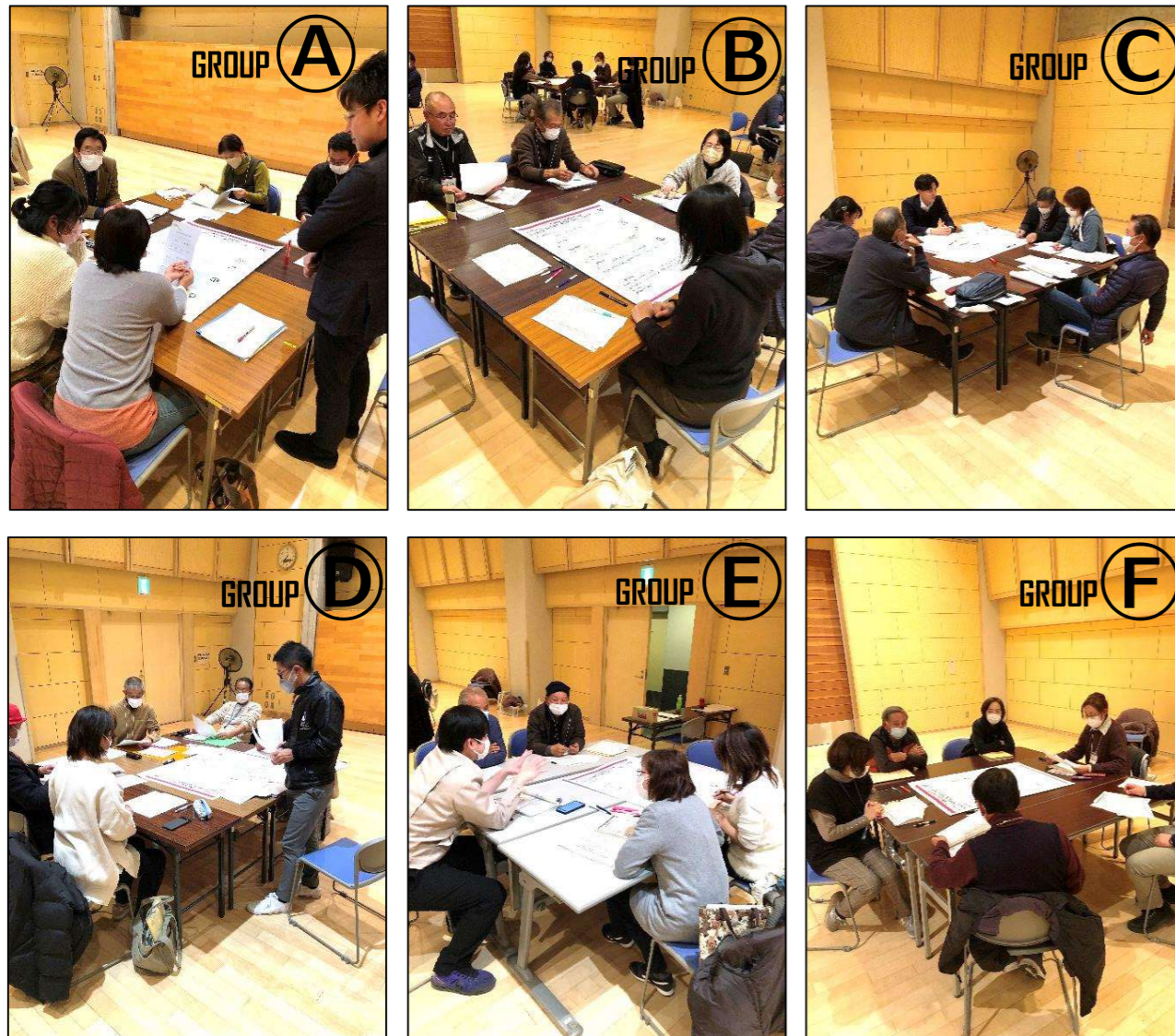
第4回会議 2023.12.15 @鉢形財産区会館

第4回ワークショップ会議では、これまでの検討を踏まえ班ごとの最終案の決定及び、発表資料の作成をおこないました。

これまでの会議では、児童生徒数の減少や、施設の老朽化等の課題に対する対応策について検討を重ねてまいりました。

- 対応策案1 既存小学校を改修して利用し続ける
- 対応策案2 2つの小学校を集約化し、城南中学校敷地内に新校舎を建設する
- 対応策案3 既存小学校1校を改修し、集約化する
- 対応策案4 その他

それぞれの対応策での、メリット・デメリット等を踏まえ、真剣な議論が交わされました!!



将来の学校施設のあり方において、『目指す将来像』や『基本理念』『最も重視すること』を**キャッチフレーズ**として定め、最終案を決定しました!!

各班の熱い思いが込められたキャッチフレーズがこちら ↓ ↓ ↓

素晴らしい教育環境

のために… ~小中一貫教育を通じて~

目指して
未来を
楽しい

して
充実を
教育活動の
目指

笑顔あふれる

みんなでいっしょに

多様な学び

出来る! 友達100人

子供達の魅力ある
学校作り

INSPIRE the CHILDREN

各班の**最終決定案**は、次号ワークショップ通信VOL.5を乞うご期待!!

最終回となる第5回ワークショップ会議は、話し合いの成果をご覧いただくため、ワークショップ参加者関係団体の皆さまを招待し、とりまとめた意見を発表する、パブリックミーティングを開催いたします!!

ワークショップ情報館

ここでは、ワークショップ会議において、重要となる内容について解説いたします!!
今回のテーマは『中一ギャップ』についてです。

中一ギャップとは…

児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等が増加したりする状況を「中一ギャップ」と言います。

— こんなに**違う!!**小学校と中学校 —

学習面

小学校は担任の先生が基本となる授業を受け持ちますが、中学生では科目ごとに先生が変わります。また、授業の難易度も上がり、定期テストも始まります。

生活面

中学校は複数の小学校から生徒が集まるため、新たな人間関係の構築が必要となります。また、部活動では、小学生ではほとんどない「先輩・後輩」の関係など縦のつながりも生じてきます。

こうした状況に対して、小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す取組み(小中連携)や、義務教育9年間を見通した教育(小中一貫教育)等が推進されており、寄居町では、一部の教科で中学校教員が小学校に出向き、授業を行う「乗り入れ授業」などを実施しております。

ワークショップ通信 VOL5

第5回会議 2024.1.26 @寄居町役場 6階会議室



第5回ワークショップ会議では、これまでの話し合いの成果をご覧いただくため、地元関係者にも来場いただき、とりまとめた意見を発表する「パブリックミーティング」を開催いたしました。



ワークショップメンバーの皆さまには、これまでの会議をとおり、現状の理解を深めていただくとともに、対応策の検討にあたっては、地域の子どもの未来・教育環境を最優先とし、さらには、災害時の避難所対応や財政問題、地域の歴史や伝統など、幅広い視点で議論いただきました。

案1 既存小学校施設を改修して利用を続ける

現在の、折原小学校、鉢形小学校、城南中学校の3校体制は変えず、老朽化した小学校2校について大規模な改修工事を実施する案です。

案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

現在の、折原小学校、鉢形小学校を集約し、城南中学校の敷地内に新校舎を建設する案です。

案3 既存小学校1校を改修し、集約する

折原小学校か鉢形小学校どちらか1校を大規模改修し、集約化する案です。

案4 その他

各班の最終意見はこちら！！

各班の意見を発表用のシートにまとめていただきました。最終意見として選択した案に対する選定理由、課題点、さらには、要望事項について、とても具体的にまとめていただきました。

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ **A班**

キャッチフレーズ
INSPIRE the CHILDREN

選んだ“案”
案4(その他) 城南中学校に両小学校を集約
ただし小学生1~6年生と中学生校舎完全別

【選定理由】

- 複式学級の解消
- 新校舎にすることで2校とも同じスタートラインに立てる
- リーダーシップや自主性を養う機会が確保できる

課題点

- 通学距離
- 小学校と中学生の発達の違い(身体・心)がある
- 9年間一緒になると、人間関係のリセットが難しい
- グラウンドなど共用だと低学年が委縮してしまう

要望事項

- スクールバス
- 小学生の成長と安全面を保障するため、校舎、グラウンド、体育館、プールなども完全に別にする(区別する)
- 敷地を別に確保する
- 学校統合サポーター等の配置

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ **B班**

キャッチフレーズ
素晴らしい教育環境の為に

選んだ“案”
案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

【選定理由】

- 児童数減少による為
- コストが低くおさえられる
- 一つの小学校が残って、一つの小学校がなくなるのであれば、新校舎(第3の場所)を建てて集約化がベターである

課題点

- 通学について(時間、距離など)スクールバス利用等
- 中学生、小学生(低学年)は体格差がある為、小学生が過ごしやすいように配慮する

要望事項

- 学校だけにまかせるのではなく、地域の人達も一緒に子ども達を守る
- 通学路(4km)にこだわるのではなく、遠い場所に住んでいる子どもはスクールバス利用を可にしたい
- 避難所を確保 校歌はどうするのか?

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ **C班**

キャッチフレーズ
出来る！友達100人
～楽しい未来を目指して～

選んだ“案”
案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

【選定理由】

- 工事費安価 経費が安くすむ
- 生徒が増えれば学校が活性化する
- 仲間作りがし易い。一生の友達ができ易い
- 新しい校舎で気持ち一新 先生もやる気が出ると思うから

課題点

- 通学路の整備
- 通学が遠くなる子が出てくる
- 気後れする子供が出てくる可能性がある
- 新校舎をどうするか

要望事項

- 学童保育を併設してもらいたい
- スクールバスを希望
- 町も一緒にコミュニケーションをとれる仕組み作りを考えて欲しい
- 折原地区に子供を増やす方法を考えて欲しい
- 移住者を増やす新しい町作りを考えて欲しい
- 寄居町に魅力を感じるようにして欲しい
- 上級生と下級生のつながりを作って欲しい

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ **D班**

キャッチフレーズ
子供達の魅力ある学校作り

選んだ“案”
案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

【選定理由】

- コストの削減
- いじめの減少
- 児童数減少への対応(複式学級の解消)

課題点

- 通学時間と距離の増加
- 放課後、休日の遊び場所がなくなる(スポーツ少年団の活動場所がなくなる)
- 避難所がなくなる

要望事項

- 遊び場所の確保・通学手段の確保(スクールバス等)
- 廃校の利活用 避難所の確保
- 城南中学校の魅力作り

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ E班

キャッチフレーズ
教育活動の充実を目指して
～小中一貫教育を通して～

選んだ“案”
案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

【選定理由】

- ・社会性の充実（児童が集団の中で多様な考えや協力ができる）・複式学級の解消
- ・校舎の老朽化、災害時の安全性の問題
- ・地域の共有と交流

課題点

- ・通学距離の問題
- ・小中一貫の教育課程の編成

要望事項

- ・スクールバス
- ・地域の見守り
- ・既施設を残し、新たな施設（テニスコート）
- ・少人数教室の充実
- ・小中学生が同じ場で過ごす事への配慮（グラウンド、プール、トイレ、体育館 etc.）

城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ F班

キャッチフレーズ
笑顔あふれる みんなでいっしょに 多様な学び

選んだ“案”
案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

【選定理由】

- ・限られた予算で継続的な管理を行える
- ・多様な学びの場が確保できる（少子化対策）
- ・城南地区内の平等性が図られる

課題点

- ・通学距離が遠くなる児童がでてくる
- ・避難場所がなくなってしまう
- ・人数が多くなることによる教育の質の低下

要望事項

- ・スクールバス等通学の足の確保
- ・避難所の確保
- ・校庭や体育館などの施設使用時の安全対策
- ・きめ細かな教育・見守りの強化

皆さんの声！！

パブリックミーティングにご来場いただきました、地元関係者の皆さまにアンケートを実施し、発表の内容や、会議の運営等についてご意見を伺いました。主なご意見を紹介させていただきます。

- どの班の意見も共通して、子どもの安心・安全を第一に、子どもを中心に据えた意見だと感じました。
- ワークショップ会議、パブリックミーティングの開催は、意義があると思います。この会に参加した人々を中心に各地区に広めていき、最後は地区の住民全員の意見を聞いて決定してほしい。
- ワークショップは、気軽な意見交換から円滑な合意形成が図られる感じでとてもよい手法だと思いました。
- どのグループも活発にワークショップができていた。町の宝である子ども達の未来のために、真剣に考えている様子は素晴らしかった。
- どの班の意見もとてもすばらしかったです。この会議の内容を踏まえて、町では今後検討していただきたいです。

編集後記

ワークショップ会議にご参加いただいた皆さまには、9月の第1回会議から、本当に長い間ご協力いただきありがとうございました。回を重ねるごとに議論は活発となり、様々なご意見をいただきました。第5回目となる「ワークショップ通信」も今回で最終号となりますが、検討状況等については、引き続き地区回覧等で情報共有を行い、地域の皆さまと共に良い形で実現できるよう、全力で取り組んでまいります。

方針決定のスケジュール

地元代表者によるワークショップ会議での意見を踏まえ、次の手続きにより、最終的な方針を決定してまいります。

